

1. 小児の外傷による死亡の時間は？

- ①外傷後数分以内の死亡 →脳実質、脳幹、上位脊髄、大血管の裂傷による
- ②外傷後数分～数時間の死亡 →硬膜外・硬膜下血腫、血気胸、脾臓破裂、肝裂傷、骨盤骨折による
- ③外傷から数日～数週間の死亡→敗血症、多臓器不全による

2. 小児外傷の評価は？（どこに運ぶか？）

小児外傷スケール	+2点	+1点	-1点
体重 (kg)	>20kg	10-20	<10
気道	正常	開存	閉塞
収縮期血圧 (mmHg)	>90	50-90	<50
中枢神経系	意識清明	意識混濁	昏睡
開放創	なし	小	大
四肢外傷	なし	閉鎖	開放

合わせて8点以下の場合→外傷センターへ

こどもがCPAで病院に搬送された場合の生存率は5%（重篤な後遺症を残した症例も含めて）

3. 最初にチェックすることは？

呼吸しているか→気道は空いているか→血圧は保たれているか→意識障害があればどの程度か

気道閉塞が疑われる場合→1人は両手でマスクと下顎を持って、もう1人はバッグ換気をする
もう1人は心電図モニター・SpO2モニターを着け、バイタルサイン（心拍数、酸素飽和度、血圧、体温）を記録

4. 意識障害がある場合

AVPUにしたがってまず評価→瞳孔チェック→四肢の動きをチェック

重篤な頭蓋損傷が考えられる場合は次のいずれか

→瞳孔の左右差、四肢の動きの左右差、髄液が鼻もしくは耳から流れている場合、陥没頭蓋骨折

5. 脊髄損傷を考える場合

意識のある場合

→鎖骨から上の外傷、意識障害を来した頭蓋損傷、
痛い場所（首から背中の中の痛い場所を言わせる！）から下の知覚なし

意識のない場合で脊髄損傷をうたがう所見

→肛門の弛緩、肘は曲げられるが伸ばせない、鎖骨から上に針を刺すと反応するが、鎖骨から下では
反応なし、血圧低下で徐脈（普通は頻脈！）

6. その他

バッグマスク換気は20/分で。徐脈→新生児：<100/分、乳幼児：<60/分、
初期のショック状態→血圧は保たれて頻脈（血圧低下があれば循環血液量の25%喪失）、皮膚はまだら
外傷後のショック状態はいつもボリューム不足→生食20cc/kgを5～15分で輸液

意識障害時の中毒との鑑別 → 薬物中毒の場合、瞳孔反応は保たれて四肢の所見は対称的。
瞳孔散大（抗ヒスタミン剤、三環系抗うつ薬、コカイン、マリファナ）
縮瞳（バルビタール、コデイン、ヘロイン）

アセトアミノフェンの中毒量は15回分→普通5回分以上は処方しないので有り得ない

収縮期血圧：生下時70mmHg、1か月80mmHg、2～12か月90mmHg

救急車内で病院に着くまでに余裕があれば聞くこと

→ A=Allergies（アレルギーはあるか？）
M=Medications（何か薬を飲んでいるか？）
P=Past illness（既往歴は？）
L=Last meal time（最後に食事をしたのは何時か？）
E=Events（何か外傷に関係する出来事があったか？）